事例No.	2425
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	特定非営利活動法人頴娃おこそ会

事例区分	地域活性化

タグ	・観光 ・関係人口 ・地域運営組織

事例種類	地域振興

事例内容・タイトル

地域総力戦による観光まちおこし

出典

平成26年度優良事例表彰一覧

総務大臣賞

鹿児島県南九州市

特定非営利活動法人 頴娃おこそ会

地域総力戦による観光まちおこし



メディア登場の増加で、５年前まではほとんど町外来訪者のいなかった釜蓋神社に多くの来訪者が訪れる様になった。写真は元旦の参拝者の行列。

事例の概要

「ＮＰＯ法人 頴娃おこそ会」は商工会のまちおこし部会を母体とするが、地域経済の衰退が顕著な南九州市頴娃地区において、官民、農商工の枠を超え「いつまでも住みたいと思える魅力あるまち」を創ることを目的に平成１７年に設立された。平成１９年にＮＰＯに改組し、①まちづくり事業　②体験型観光事業　③特産品事業等を中心に活動している。

昨今最も活発なのは観光を通じたまちおこし活動であり、景勝に恵まれながらも観光誘致に生かせていなかった釜蓋神社や番所鼻公園、大野岳など町内スポットの磨き上げと観光資源化への取組は、観光雑誌掲載や来訪者増加に結びついた。こうした観光誘致の動きは頴娃地域全体に波及し、おこそ会を起点とした観光、農業、商工、行政など各組織間の横断的ネットワーク化に繋がるとともに、観光まちおこし活動に地域住民が参加することで市民の郷土意識向上にも寄与している。



おこそ会のメンバー達：大野岳を望むサツマイモ畑にて。メンバー自らが収穫したイモで焼酎をつくる。

評価のポイント

平成１９年に頴娃町・知覧町・川辺町が合併して誕生した南九州市において、頴娃地域は、武家屋敷や特攻平和会館がある知覧と指宿の間にあり、開聞岳を望む風光明媚な海岸を持ちながら、観光通過地点となっていた。

このような中、かねてから地域の状況に危機感を持っていた住民が、まちおこしを目的として、平成１７年に「頴娃おこそ会」を立ち上げた。その活動は、タツノオトシゴの養殖を観光養殖場「タツノオトシゴハウス」に発展させたＩターンの民間業者との連携につながり、タツノオトシゴの夫婦愛にちなんだ「竜のおとし子吉鐘」の設置（番所鼻公園）や、「釜の蓋を拝殿まで頭に載せて願をかければ願いが叶う」ユニークな願掛けが評判となった釜蓋神社などを紹介する観光マップ「えい日和」の作成、著名人の参拝もあって業界の評価も高まり、頴娃地域への来訪者も増加した。

頴娃おこそ会は、メンバーが重なる釜蓋まちおこし会、茶寿会、中心部の石垣商店街等との連携の中心組織として活動し、これを頴娃観光協会と商工会頴娃支部が支えるという、いわば協働ネットワークの要として、それぞれの持ち味を生かして人と人の間に新しくて強いつながりを創出し、短期間に旧頴娃町の資源を育て、結び付けてきた。この成果は、斬新なアイディアを持つＩターン（タツノオトシゴハウス）と地域で生きようとするＵターン（茶農家の女性後継者）の若者と、その価値に素直に反応した地元の人々のまさに協働の賜物と言える。

本事例は、このような点が高く評価された。



えい日和完成：完成した頴娃観光散策マップを持っての編集メンバーによる記念撮影。NPOが来訪者目線で作ったマップとして新聞にも広く紹介された。年間３万部を町内スポットで配布。



お茶振る舞いツアー：農業のまち、頴娃では茶農家グループが観光客に対し“グリーン・ティ・リズム”と称した独自のもてなし対応を行っている。茶摘採機への試乗の様子。



吉鐘建立：観光地でなかったまち、頴娃における観光まちおこし活動の起点ともなるのがこの鐘を番所鼻公園に設置したことだった。公園のシンボルとなり来訪者増や整備事業誘致に繋がった。

DATA 鹿児島県南九州市（みなみきゅうしゅうし）

団体名●特定非営利活動法人　頴娃おこそ会
所在地●〒891-0704　鹿児島県南九州市頴娃町別府5202
連絡先●TEL：0993-38-0160（いせえび荘内）　FAX：0993-38-2721
E-mail：iseebiso@coffee.ocn.ne.jp　URL:http://ei-okosokai.jimdo.com/

【交通のご案内】
自動車●指宿スカイライン頴娃（えい）ＩＣから県道234号で約20分
鉄　道●JR指宿枕崎線「水成川駅」下車から徒歩15分
飛行機●鹿児島空港から自動車で約1時間50分



▶国勢調査人口（単位：人）

昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年
74,059	51,768	44,137	42,191	39,065

▶人口増減率（単位：%）

H22/S35	H22/S55	H22/H12	H22/H17
-47.3	-24.5	-11.5	-7.4

▶高齢者・若年者比率（H22年）（単位：%）

高齢者比率（65歳以上）	若年者比率（15歳以上30歳未満）
34.2	11.4